



23 京 関東一坪よびかけ  
日比谷野音で2000人集会

11・東 十一月二十三日、沖縄一坪

反戦地主会関東ブロックの呼びかけによつて、「沖縄から訴える!」基地のない未来をともに」が二千人の結集をもつて、東京・日比谷野外音楽堂にて大々的に開催された。普天間基地の「返還」に伴う代替基地への政府防衛庁の自論見、また来年二月からは約三千人の反戦地主、一坪反戦地主への「公開審理」開始、さらに五月には米軍用地の強制使用期限切れが迫り、これまでにも増して沖縄をしてヤマトの地でも安保粉碎、基地撤去を軸とした連続的な闘争が迫っている。それに伴い、今まで以上に沖縄と本土との連帯の重要性が求められて、基地の本土移転を絶対に許さない態勢、反撃の準備も早急に課題に上がっている。

集会はまず、今日のために寄せられた那覇市長そして沖縄県長の連帯のメッセージから始まつた。「沖縄米軍基地撤去の願いは沖縄、本土を貢く共通の願いである。本土の地からこの闘いに連帯し、応援してくれる市民のみなさんに感謝します」との自治体の長として力強い言葉が発せられた。

また、沖縄で最愛の息子を米軍車両との事故によつて殺された海老原大佑さんが報告に立ち、地位協定の不当性や「本土ではほとんど知られていない米軍による沖縄人民に対する事故やレイプ事件の現状を暴露した。また、自らが代表世話をした。なつた米軍人・軍属による事件、被害者の会発足を宣言。今後も一坪反戦地主会を中心とした基地撤去・安保粉碎を闘う仲間



「96 反戦反核東京集会」(11月17日、千駄ヶ谷区民会館)

11・東 11・京

反戦反核東京集会

2 京 日米合同軍事演習反対!

11・東 防衛庁に抗議行動

十一月二日、「沖縄から米軍基地の撤去を!」日米合同軍事演習反対「一二二抗議行動」が小雨の中、「沖縄の軍用地強制使用に反対し、新しい反安保行動をつくる実行委員会」の主催のもと、東京・桧町公園でたたかわれた。約百三十名の仲間が結集した。これは、基地撤去を求める沖縄人民の声に逆行し、十月下旬から十一月中旬にかけて日・米韓合同でおこなわれた軍事演習に抗議するとともに、自衛隊日出台演習場への米軍演習移転を画策している政府・防衛庁に対し、断固としてこの度を示したものである。

集会はまず、実行委員会の木元さんの「今回の日米韓の軍事演習は日米安保の強化・拡大をねらつたものである。今後も自衛隊の中東派兵など米と歩調を合わせた安保のエスカレート」

創つていく」と述べた。最後に沖縄県人会から集会決議が読み上げられる。「私たちは、いかなる軍事基地もいらない。沖縄に住む者にとって基地全面撤去は心からの願いであります」。

この後、全国各地で反安保、反基地をたたかう仲間からの連絡が入り、そしてそれに続く政府・防衛庁の不法占拠と、この間、勝利したたかないと負けたたかいが繰り返された。しかし、ひどい結果をもたらすのではなく、最後の完全勝利をめざしてこれからもがんばっていこう。これからも基地を撤去するたたかいは続く。これは盗られた土地を取り戻すたかだ。そして来年の二月十一日からは「公開審理」が始まる。このような政府・防衛庁の攻撃には全国からの力の結集が必要であり、たたかいのエネルギーを

参議院議員の矢部邦理さんの挨拶の後、新崎盛暉さんが講演した。新崎さんは、太田知事への過大評価があつたことや知事の公告・総選挙受け入れ後のチルドライ気の抜けた」といわれている運動状況について説明。また、県民投票に六割近くの人々が投票し圧倒的多数が基地否定の意志表示をしたこと、県民投票と並行して高校生たちが

見直しについて、自治体にできることがあると指摘し、自治体に見直し案を提起していく運動のあり方の重要性を指摘した。

吉川さんは、同情や寄りかかることでない、自己の問題として行う運動のあり方の重要性を指摘した。新倉さんは、日米地位協定の見直しについて、自治体にできることでない、自己の問題として行う運動のあり方の重要性を指摘した。

合、一坪反戦地主会関東ブロックが開催され、二百七十名が参加した。基調報告と新社会党委員長、核東京集会が千駄ヶ谷区民会館で開催され、三百七十名が参加した。

十一月十七日、「九六反戦反核東京集会」が千駄ヶ谷区民会館で開催され、三百七十名が参加した。新崎さんは、太田知事への過大評価があつたことや知事の公告・総選挙受け入れ後のチルドライ気の抜けた」といわれている運動状況について説明。また、県民投票に六割近くの人々が投票し圧倒的多数が基地否定の意志表示をしたこと、県民投票と並行して高校生たちが見直しについて、自治体にできることがあると指摘し、自治体に見直し案を提起していく運動のあり方の重要性を指

今号の連載「左折」は休みます

# 本紙の定期購読を

# 尖閣諸島問題に対する態度

「尖閣諸島」は、中国名で釣魚島と呼ばれ、揚子江以南海部、台湾北岸、琉球列島に三方を接する海域のただ中にある無人島である。ここに、日本の天皇主義右翼「日本青年社」が今年七月、「灯台」を建てたことをきっかけに、香港、台湾、中国に対抗行動が巻き起こった。

九月から十月にかけて香港と台湾の市民による釣魚台上陸のた

かいが日本帝国主義の海上保安庁・自衛隊の警備を突破して貫徹され、その中で一つの命が犠牲になつた。われわれは、こ

のたたかいに連帯を表明すると

ともに、連帯する自己の立場について考察していきたいと思う。

日本は、帝国主義列強が世界を分割し尽くし市場再分割に入つていく時代に朝鮮の植民地化を狙つて出兵し日清戦争を引き起こすが、その最中の一八九五年一月、「尖閣諸島」の一部(釣魚島と久場島)を沖縄県に組み込むことを閣議決定した。これが、この岩礁群の領有権をめぐる紛争の発端である。ちなみに、日清戦争に勝利した日本は、

戦後帝は、沖縄を軍事拠点化する際にこれらの諸島もその

軍政下に置き、七二年の沖縄復帰でもこれら諸島の施政権を日本に渡し、領有権について

は紛争当事者で解決すべきだ

となる。

まさにこの諸島の日本による

主義列強の一角を占めて世界再

分割戦争に乗り出していくこと

になる。

まさにこの諸島の日本による

主義列強の一角を占めて世界再

分割戦争に乗り出していくこと

になる。

日本は、帝國主義列強が世界

を分割し尽くし市場再分割に入

つていく時代に朝鮮の植民地化

を狙つて出兵し日清戦争を引き

起こすが、その最中の一八九五年一月、「尖閣諸島」の一部(釣

魚島と久場島)を沖縄県に組み

込むことを閣議決定した。これ

が、この岩礁群の領有権をめぐ

る紛争の発端である。ちなみ

に、日清戦争に勝利した日本は、

戦後帝は、沖縄を軍事拠点

化する際にこれらの諸島もその

軍政下に置き、七二年の沖縄

復帰でもこれら諸島の施政権

を日本に渡し、領有権について

は紛争当事者で解決すべきだ

となる。

まさにこの諸島の日本による

主義列強の一角を占めて世界再

分割戦争に乗り出していくこと

になる。

日本は、帝國主義列強が世界

を分割し尽くし市場再分割に入

つていく時代に朝鮮の植民地化

を狙つて出兵し日清戦争を引き

起こすが、その最中の一八九五年一月、「尖閣諸島」の一部(釣

魚島と久場島)を沖縄県に組み

込むことを閣議決定した。これ

が、この岩礁群の領有権をめぐ

る紛争の発端である。ちなみ

に、日清戦争に勝利した日本は、

戦後帝は、沖縄を軍事拠点

化する際にこれらの諸島もその

軍政下に置き、七二年の沖縄

復帰でもこれら諸島の施政権

を日本に渡し、領有権について

は紛争当事者で解決すべきだ

となる。

まさにこの諸島の日本による

主義列強の一角を占めて世界再

分割戦争に乗り出していくこと

になる。

日本は、帝國主義列強が世界

を分割し尽くし市場再分割に入

つていく時代に朝鮮の植民地化

を狙つて出兵し日清戦争を引き

起こすが、その最中の一八九五年一月、「尖閣諸島」の一部(釣

魚島と久場島)を沖縄県に組み

込むことを閣議決定した。これ

が、この岩礁群の領有権をめぐ

る紛争の発端である。ちなみ

に、日清戦争に勝利した日本は、

戦後帝は、沖縄を軍事拠点

化する際にこれらの諸島もその

軍政下に置き、七二年の沖縄

復帰でもこれら諸島の施政権

を日本に渡し、領有権について

は紛争当事者で解決すべきだ

となる。

まさにこの諸島の日本による

主義列強の一角を占めて世界再

分割戦争に乗り出していくこと

になる。

日本は、帝國主義列強が世界

を分割し尽くし市場再分割に入

つていく時代に朝鮮の植民地化

を狙つて出兵し日清戦争を引き

起こすが、その最中の一八九五年一月、「尖閣諸島」の一部(釣

魚島と久場島)を沖縄県に組み

込むことを閣議決定した。これ

が、この岩礁群の領有権をめぐ

る紛争の発端である。ちなみ

に、日清戦争に勝利した日本は、

戦後帝は、沖縄を軍事拠点

化する際にこれらの諸島もその

軍政下に置き、七二年の沖縄

復帰でもこれら諸島の施政権

を日本に渡し、領有権について

は紛争当事者で解決すべきだ

となる。

まさにこの諸島の日本による

主義列強の一角を占めて世界再

分割戦争に乗り出していくこと

になる。

日本は、帝國主義列強が世界

を分割し尽くし市場再分割に入

つていく時代に朝鮮の植民地化

を狙つて出兵し日清戦争を引き

起こすが、その最中の一八九五年一月、「尖閣諸島」の一部(釣

魚島と久場島)を沖縄県に組み

込むことを閣議決定した。これ

が、この岩礁群の領有権をめぐ

る紛争の発端である。ちなみ

に、日清戦争に勝利した日本は、

戦後帝は、沖縄を軍事拠点

化する際にこれらの諸島もその

軍政下に置き、七二年の沖縄

復帰でもこれら諸島の施政権

を日本に渡し、領有権について

は紛争当事者で解決すべきだ

となる。

まさにこの諸島の日本による

主義列強の一角を占めて世界再

分割戦争に乗り出していくこと

になる。

日本は、帝國主義列強が世界

を分割し尽くし市場再分割に入

つていく時代に朝鮮の植民地化

を狙つて出兵し日清戦争を引き

起こすが、その最中の一八九五年一月、「尖閣諸島」の一部(釣

魚島と久場島)を沖縄県に組み

込むことを閣議決定した。これ

が、この岩礁群の領有権をめぐ

る紛争の発端である。ちなみ

に、日清戦争に勝利した日本は、

戦後帝は、沖縄を軍事拠点

化する際にこれらの諸島もその

軍政下に置き、七二年の沖縄

復帰でもこれら諸島の施政権

を日本に渡し、領有権について

は紛争当事者で解決すべきだ

となる。

まさにこの諸島の日本による

主義列強の一角を占めて世界再

分割戦争に乗り出していくこと

になる。

日本は、帝國主義列強が世界

を分割し尽くし市場再分割に入

つていく時代に朝鮮の植民地化

を狙つて出兵し日清戦争を引き

起こすが、その最中の一八九五年一月、「尖閣諸島」の一部(釣

魚島と久場島)を沖縄県に組み

込むことを閣議決定した。これ

が、この岩礁群の領有権をめぐ

る紛争の発端である。ちなみ

に、日清戦争に勝利した日本は、

戦後帝は、沖縄を軍事拠点

化する際にこれらの諸島もその

軍政下に置き、七二年の沖縄

復帰でもこれら諸島の施政権

を日本に渡し、領有権について

